

■使用評価マニュアル: 北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト: CASBEE北九州\_2014(v2.0)

## 1 建物概要

建物名称	松田産業(株)北九州拠点建設工	BEE	1.6	BEEランク	A	★★★★
------	-----------------	-----	-----	--------	---	------

## 2 重点項目への取組み度

重点項目	得点 <sup>※</sup> /満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.8 / 5		ふつう
2 地球温暖化対策の推進	3.9 / 5		ふつう
3 豊かな自然環境の確保	3.0 / 5		ふつう
4 高齢社会への対応	3.0 / 5		ふつう

※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)	評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満
---	-------	----------------	-----------------	-------------------

## 3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2021年版	使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021(v.1.1)
---------------------------------------	---

1 循環型社会への貢献		スコア平均	3.8
リサイクルに関する配慮	長寿命化に関する配慮		
LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数	スコア	3.7
	Q2/ 3 対応性・更新性	スコア	3.8
LGS下地を採用。	階高にゆとりがある。	スコア	4
2 地球温暖化対策の推進		スコア平均	3.9
省エネ・省資源に関する配慮	節水に関する配慮		
LR3/ 1 地球温暖化への配慮	LR2/ 1.1 節水	スコア	3.8
ライフサイクルCO2排出率80%	節水コマを採用。	スコア	4
3 豊かな自然環境の確保		スコア平均	3.0
生態系保全に関する配慮	緑化に関する配慮		
Q3/ 1 生物環境の保全と創出	Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3
	LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア	3
緑化を有している。	緑化を有している。		
4 高齢社会への対応		スコア平均	3.0
バリアフリーに関する配慮	主な指標		
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	建物の外皮性能 (BPI評価)	スコア	3
バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準を満たしている。	非住宅: BPI値、住宅: 省エネ等級		
	建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価)		
	非住宅: BEIm値、住宅: -		0.48
	外構緑化指数		12.44 %
	建物緑化指数		0 %

: 入力欄

: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

# CASBEE®-建築(新築)

# 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	松田産業(株)北九州拠点建設工事	階数	地上1F
建設地	福岡県北九州市若松区向洋町10-1	構造	S造
用途地域	市街化区域	平均居住人員	27人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年12月 予定	評価の実施日	2023年2月21日
敷地面積	59,839 m <sup>2</sup>	作成者	須田 岳志
建築面積	6,949 m <sup>2</sup>	確認日	2023年2月21日
延床面積	7,041 m <sup>2</sup>	確認者	須田 岳志



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.6**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.2**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.5

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.8

**LR のスコア = 3.5**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項		
総合	効率の良い設備機器を使用しており、エネルギー消費、環境負荷低減になるよう設計されている。	その他 特になし
Q1 室内環境	対象外	Q2 サービス性能 階高にゆとりがあり、利用者にとって広く感じる空間になるよう努めている。
Q3 室外環境(敷地内)		建物がまちなみや風景にバランスよく調和されており、植栽も行って景観への配慮も行っている。
LR1 エネルギー	建築物を運用する際に発生するエネルギー消費を低減する取り組みに努めている。	LR2 資源・マテリアル LGS下地を採用している。
LR3 敷地外環境		ライフサイクルCO <sub>2</sub> の排出量が、一般的な建築物と同等であり、地球温暖化への配慮を行っている。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版**  
**松田産業(株)北九州拠点建設工事**

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v1.1)

スコアシート		実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄					全体		
		評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>						<b>3.2</b>		
<b>Q1 室内環境</b>						<b>2.5</b>		
<b>1 音環境</b>		<b>2.6</b>	0.15	-	-	2.6		
1.1 室内騒音レベル	-	<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	-			
1.2 遮音	-	<b>3.0</b>	0.40	-	-			
1 開口部遮音性能	-	3.0	0.60	-	-			
2 界壁遮音性能	-	3.0	0.40	-	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	-	3.0	-	-	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	-	3.0	-	-	-			
1.3 吸音	-	<b>1.0</b>	0.20	-	-			
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.1</b>	0.35	-	-	2.1		
2.1 室温制御	-	<b>2.0</b>	0.50	-	-			
1 室温	-	3.0	0.38	-	-			
2 外皮性能	-	2.0	0.25	-	-			
3 ゾーン別制御性	-	1.0	0.38	-	-			
2.2 湿度制御	-	<b>1.0</b>	0.20	-	-			
2.3 空調方式	全熱交換機設置	3.0	0.30	-	-			
<b>3 光・視環境</b>		<b>2.8</b>	0.25	-	-	2.8		
3.1 昼光利用	-	<b>4.2</b>	0.30	-	-			
1 昼光率	横連窓の採用	5.0	0.60	-	-			
2 方位別開口	-	-	-	3.0	-			
3 昼光利用設備	-	3.0	0.40	-	-			
3.2 グレア対策	-	<b>3.0</b>	0.30	-	-			
1 昼光制御	-	3.0	1.00	-	-			
3.3 照度	-	<b>3.0</b>	0.15	-	-			
3.4 照明制御	-	<b>1.0</b>	0.25	-	-			
<b>4 空気質環境</b>		<b>2.7</b>	0.25	-	-	2.7		
4.1 発生源対策	-	<b>3.0</b>	0.50	-	-			
1 化学汚染物質	-	3.0	1.00	-	-			
4.2 換気	-	<b>2.6</b>	0.30	-	-			
1 換気量	-	3.0	0.33	-	-			
2 自然換気性能	-	1.0	0.33	-	-			
3 取り入れ外気への配慮	各種排気口と6m以上離隔	4.0	0.33	-	-			
4.3 運用管理	-	<b>2.0</b>	0.20	-	-			
1 CO <sub>2</sub> の監視	-	3.0	0.50	-	-			
2 喫煙の制御	-	1.0	0.50	-	-			
<b>Q2 サービス性能</b>		-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.2</b>		
<b>1 機能性</b>		<b>2.7</b>	0.40	-	-	2.7		
1.1 機能性・使いやすさ	-	<b>1.6</b>	0.40	-	-			
1 広さ・収納性	-	1.0	0.33	-	-			
2 高度情報通信設備対応	-	1.0	0.33	-	-			
3 バリアフリー計画	-	3.0	0.33	-	-			
1.2 心理性・快適性	-	<b>3.3</b>	0.30	-	-			
1 広さ感・景観	詰所の天井高さ3.0m	5.0	0.33	-	-			
2 リフレッシュスペース	1階に休憩室50.75㎡	4.0	0.33	-	-			
3 内装計画	-	1.0	0.33	-	-			
1.3 維持管理	-	<b>3.5</b>	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計	メンテナンス性に優れた素材の選定	4.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保	-	3.0	0.50	-	-			
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.3</b>	0.30	-	-	3.3		
2.1 耐震・免震・制震・制振	-	<b>3.0</b>	0.50	-	-			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	-	3.0	0.80	-	-			
2 免震・制震・制振性能	-	3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数	-	<b>3.8</b>	0.30	-	-			
1 躯体材料の耐用年数	外壁仕様はSPパネル(ニスクプロコートベーシックSGL)	3.0	0.20	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	-	4.0	0.20	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	ビニル床シート、ボード類、鋼製建具	5.0	0.10	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	-	3.0	0.10	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	2種類以上にC以上を使用	4.0	0.20	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔	FRP製受水槽、受電盤、変圧器	4.0	0.20	-	-			
2.4 信頼性	-	<b>3.6</b>	0.20	-	-			
1 空調・換気設備	-	3.0	0.20	-	-			
2 給排水・衛生設備	節水型大便器採用。排水は中継槽内に一時貯留可能。	4.0	0.20	-	-			
3 電気設備	電源設備の浸水対策(架台)他、排水設備も設置	4.0	0.20	-	-			
4 機械・配管支持方法	-	3.0	0.20	-	-			
5 通信・情報設備	通信手段の多様化を図っている	4.0	0.20	-	-			

<b>3</b>	<b>対応性・更新性</b>		<b>4.0</b>	0.30	-	-	<b>4.0</b>
	<b>3.1 空間のゆとり</b>		<b>5.0</b>	0.30	-	-	
	1 階高のゆとり	階高 12.20m	5.0	0.60	-	-	
	2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.053	5.0	0.40	-	-	
	<b>3.2 荷重のゆとり</b>	-	<b>3.0</b>	0.30	-	-	
	<b>3.3 設備の更新性</b>		<b>4.0</b>	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性	PS設置	4.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性	ケーブルラックを通して配線し既設可能	5.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性	ケーブルラックを通して配線し既設可能	5.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性	電気将来拡張スペース	4.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保	電気将来拡張スペース	4.0	0.20	-	-	
<b>Q3</b>	<b>室外環境(敷地内)</b>		-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.8</b>
<b>1</b>	<b>生物環境の保全と創出</b>	-	<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>2</b>	<b>まちなみ・景観への配慮</b>	景観に配慮した色調、外装材の利用	<b>5.0</b>	0.40	-	-	<b>5.0</b>
<b>3</b>	<b>地域性・アメニティへの配慮</b>		<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	<b>3.0</b>	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	-	<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR</b>	<b>建築物の環境負荷低減性</b>		-	-	-	-	<b>3.5</b>
<b>LR1</b>	<b>エネルギー</b>		-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.7</b>
<b>1</b>	<b>建物外皮の熱負荷抑制</b>	-	<b>1.0</b>	0.20	-	-	<b>1.0</b>
<b>2</b>	<b>自然エネルギー利用</b>	-	<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3</b>	<b>設備システムの高効率化</b>	BEI=0.48	<b>5.0</b>	0.50	-	-	<b>5.0</b>
<b>4</b>	<b>効率的運用</b>		<b>3.5</b>	0.20	-	-	<b>3.5</b>
	集合住宅以外の評価		<b>3.5</b>	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング	-	4.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
	4.1 モニタリング	-	-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	-	-	-	-	
<b>LR2</b>	<b>資源・マテリアル</b>		-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.5</b>
<b>1</b>	<b>水資源保護</b>		<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
	1.1 節水	節水型大便器を採用	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		<b>3.0</b>	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-	
<b>2</b>	<b>非再生性資源の使用量削減</b>		<b>3.7</b>	0.60	-	-	<b>3.7</b>
	2.1 材料使用量の削減	-	3.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	基礎:高炉セメント選定	5.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	2.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	LGs下地を採用、ケーブルラックを通して配線	5.0	0.20	-	-	
<b>3</b>	<b>汚染物質含有材料の使用回避</b>		<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	<b>3.0</b>	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		<b>3.0</b>	0.70	-	-	
	1 消火剤	-	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)	-	3.0	0.50	-	-	
	3 冷媒	-	3.0	0.50	-	-	
<b>LR3</b>	<b>敷地外環境</b>		-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.5</b>
<b>1</b>	<b>地球温暖化への配慮</b>	ライフサイクルCO2排出率80%	<b>3.8</b>	0.33	-	-	<b>3.8</b>
<b>2</b>	<b>地域環境への配慮</b>		<b>3.6</b>	0.33	-	-	<b>3.6</b>
	2.1 大気汚染防止	燃焼機器を使用していない	<b>5.0</b>	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	-	<b>3.0</b>	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		<b>3.5</b>	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制	駐車スペースの確保	4.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	分別可能なスペースを確保し、種類・量の把握に努める	4.0	0.25	-	-	
<b>3</b>	<b>周辺環境への配慮</b>		<b>3.1</b>	0.33	-	-	<b>3.1</b>
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
	1 騒音	-	3.0	0.33	-	-	
	2 振動	-	3.0	0.33	-	-	
	3 悪臭	-	3.0	0.33	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
	1 風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制	-	2.0	-	-	-	
	3 日照阻害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制		<b>3.7</b>	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物の照明無し	4.0	0.70	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

松田産業(株)北九州拠点建設工事

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
<b>Q2 サービス性能</b>															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	6.0		○	○	-	-	-	○	○	-	-	○	○	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	6.0		-	-	-	-	-	○	○	-	-	○	○	○	-
2.4.1 空調・換気設備	1.0		-	-	-	-	○								
2.4.2 給排水・衛生設備	3.0	3.0	○	-	○	-	-	-	○						
2.4.3 電気設備	3.0	2.0	○	-	○	○	-	-							
2.4.5 通信・情報設備	3.0		○	-	○	-	-	○							
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>															
1 生物資源の保全と創出	8.0		2.0	-	1.0	-	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-		
2 まちなみ・景観への配慮	5.0		2.0	1.0	-	1.0	1.0	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		-	-	1.0	-	-	1.0	-	-					
3.2 敷地内温熱環境の向上	7.0		-	3.0	-	1.0	3.0	-	-	-	-				
<b>LR1 エネルギー</b>															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-	-				
2.1 材料使用量の削減	1.0		-	1.0	-	-	-								
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	1.0	-	-	-								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	○	-	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-														
<b>LR3 敷地外環境</b>															
2.2 温熱環境悪化の改善	7.0		1.0	1.0	-	2.0	-	-	1.0	1.0	1.0	-			
2.3.3 交通負荷抑制	3.0		-	-	1.0	1.0	1.0	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	4.0		1.0	1.0	1.0	1.0		-	-						
3.2.2 砂塵の抑制	1.0		1.0	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0		1.0	2.0											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	-	窓の日射熱取得率(η)	-
U値(W/m2K)	窓システム	屋根	外壁
住戸部分	窓システムU値	外皮UA値	ηAC
屋光率	3.5%	ηAH	-
自然換気有効開口面積率	0.0%		

3.1.1 屋光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース	0.0㎡/人	病床	0.0㎡/床	シングル	0.0㎡ ツイン	0.0㎡
--------	--------	----	--------	------	----------	------

1.1.2 高度情報通信設備対応

コンセント容量	30.0 VA/㎡
---------	-----------

1.2.1 広さ感・景観

天井高	0 m
-----	-----

1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース	0.5%	レストスペース	2.0%
------------	------	---------	------

2.2.1 躯体材料の耐用年数

想定耐用年数	0 年
--------	-----

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

想定必要間隔	0 年
--------	-----

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

想定必要間隔	20~30 年
--------	---------

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔	16~30年 年
--------	----------

3.1.1 階高のゆとり

階高	12.2 m
----	--------

3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率	5.3%
-------	------

3.2 荷重のゆとり

床荷重	- N/m2
-----	--------

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数	0%	建物緑化指数	0%
--------	----	--------	----

3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率	0%	水平投影面積率	0%	地表面対策面積率	0%	舗装面積率	0%
-----	----	---------	----	----------	----	-------	----

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI <sub>m</sub>	-	断熱等性能等級	等級2 相当
----------------------	---	---------	--------

2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年㎡	採光を満たす教室数	0.0%	採光を満たす住戸数	0.0%
--------------	---------	-----------	------	-----------	------

通風を満たす教室数	0.0%	通風を満たす住戸数	0.0%
-----------	------	-----------	------

3 設備システムの高効率化

BPI/BPI <sub>m</sub>	非住宅	0.48	住宅	-	太陽光	0.0kW	太陽熱等	0.0kW	蓄電池	0.0kW
----------------------	-----	------	----	---	-----	-------	------	-------	-----	-------

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率	0.0%
-------	------

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

特定調達品目	-	エコマーク商品	シートシャッター	自治体指定の特定品目等	-
--------	---	---------	----------	-------------	---

2.5 持続可能な森林から産出された木材

使用比率	0.0%
------	------

3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数(ODP)	地球温暖化係数(GWP)
---------------	--------------

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(ODP)	地球温暖化係数(GWP)
---------------	--------------

3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)
---------------	---	--------------

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比	44%	隣棟間隔指標Rw	0.40						
地表面対策面積率	8.0%	屋根面対策面積率	0.0%	外壁面対策面積率	#DIV/0!				
見付面積Sb	40,000㎡	卓越風向と直交する最大敷地幅Ws	200 m	基準高さHb	450 m				
緑地	㎡	水面	㎡	保水性対策面	㎡	高反射対策面	200㎡	再帰性反射対策面	㎡